

FIDIC News October 2009

訳責：国際活動委員会 IFI 分科会

脚注：この抄訳は IFI 分科会の若手サブメンバーの翻訳を分科会で監修したものです。

A. 活動 (FIDIC -Activities)

A.1 FIDIC ロンドン大会の焦点は気候変動 (FIDIC Conference highlighted climate change)

重要な気候変動に係る会議である 2009 年度第 15 回気候変動枠組条約締約国会議 (COP15) のコペンハーゲンでの開催をわずか数週間後に控えて、2009 年 FIDIC ロンドン大会が 9 月 13 日から 16 日にかけて開催された。同大会は、英国のアン王女の挨拶で幕を開けた (写真)。今回の FIDIC 大会は、世界中のコンサルティングエンジニアが目標を達成するための解決方法を見いだす手助けをする用意があることを念頭に、実行可能な合意がなされるよう世界中の指導者に要求することを目的とした。交渉を成功裏に終えることの重要性に重きをおく要求が、同大会から明らかになる主要な提案であった。参加者は、FIDIC とそのメンバー協会やコンサルタント会社に地球規模の課題にこれまで以上に取り組むよう、彼らの声を上げるよう、また、やがて持続可能となる解決策に導くより良い方法を見出すよう強く求めた。



FIDIC は、Ban-Ki-moon 国連事務総長に書簡 (PDF 参照) を送り、2009 年 12 月にコペンハーゲンで開催される COP15 締約国首脳会議で証言するための招待を要請した。また、この書簡には、合意は単に CO₂ 排出量削減目標についてだけでなく、気候変動を緩和し、適用できる意味のある行動についてもなされるべきことに言及した。

交渉に用いる重要な科学的資料は、気候変動に関する政府間委員会の 2007 年第 4 次評価報告書と、新たな知識を加えた 2009 年総合報告書 (PDF) である。後者は「人の活動が地球上の生物の基本的条件を変化させているという証拠は圧倒的にあり、これらの変化によってもたらされた難題は、我々を躊躇させるのに十分である。しかし、行動を遅らせることは、単に次世代へのリスクを増加させるだけである。COP15 は、そのような変革可能な取り組みをスタートさせるユニークでタイムリーな機会を提供している。」と結論づけている。FIDIC 大会 (プレゼンテーションについては www.fidic2009.org/talks を参照) は、インフラストラクチャに係る全ての産業部門、特に運輸、建築 (住宅及び非住宅)、エネルギー、廃棄物、及び上下水道部門が目標を持つ必要があると結論づけた。FIDIC の要請書と書簡は、「FIDIC 世界インフラ白書」の初版発行に関連して出された。白書は、世界的にインフラストラクチャを厳しい目で検討し、その解決に対する工学的な展望を示した。同白書は www.fidic.org/infra で閲覧できるが、インフラストラクチャの欠陥に焦点をあてており、インフラストラクチャへの持続可能な投資と投資決定の早い段階からエンジニアを参画させる必要性を強調するためにコンサルティングエンジニア業界によって利用されるであろう。まとめとして FIDIC 会長 John Boyd は次のように述べた。「人類の歴史において最近ほど、エンジニアの声に耳を傾ける必要性が高まった時代はない。世界はいくつかの領域で深刻な課題に直面している。そしてエンジニアには、解決策を見いだすことが期待されている。この業界の主要な課題は、政策決定者と協働するより良い方法を見出すことである。」と。

B. 事業展開 (Business-Development)

B.1 グリーンビルディング格付システムは気候変動指標に集中 (Green rating systems converge on a climate indicator)

最近の詳細なレビューは、「米国グリーンビルディング協会 (USGBC) の LEED グリーンビルディング格付システムは、測定可能な重要な分野、すなわち温室効果ガス (GHG) 及びエネルギー分野をリードできなかった。」と結論づけた (PDF)。これらの分野は正に FIDIC が活発に活動している分野であり、国連環境計画 (UNEP) の持続可能な建築物及び気候変動イニシャティブの SBCI インデックス及び国際標準化機構 (ISO) の持続可能な建築基準が取り扱っている。両者ともに、建築物の共用中のエネルギー消費を減らすことが地球温暖化 GHG 削減を進める上で最も費用対効果が高いと論じている。SBCI インデックスは、建築物の現地での燃料消費、電力消費及び蒸気/熱量発生に関する全 CO₂e 値を見積るために、各国が CO₂ 換算数値算定に国連 GHG 算定方式 (UN GHG Calculator) を使用するよう提案している (CO₂e は、各 GHG の共用期間 × 放出係数 × 温暖化潜在能力によって求められる)。しかしながら、最近 ISO は、「気候変動に影響を与える潜在的インパクトに関して中核をなす指標は、建築物に特有な資源の利用だけでなく、建築物へのアクセスというその場所に特有なものがある。」との考え方を示している。国連算定方式は、最近、スタッフの移動に関して GHG を取り入れることによってアクセスの重要性を評価している。したがって、持続可能な建築物に関しては、種々の基準をベースにした GHG 評価基準指標についての収束がみられる。

一方、USGBC は、FIDIC が創立メンバーである「持続可能な建築アライアンス (SB アライアンス)」に加入した。このアライアンスは建築物に関する 7 つの国家評価システムの測定の基準化をまとめることを目的としている。SB アライアンスはパリにおける年次会議で 6 つの中核指標を提示し、UNEP の SBCI インデックスを用いて検討を進めていた。このことは、「建築物の評価及び認証システムが、地球温暖化緩和の全世界での進捗状況を計測するのに利用可能な、測定可能で、種々の基準に基づいた GHG 指標を支持する」ことを示唆している。

C. 実務 (Business-Practice)

C.1 GHG 協定及び基準統合の必要性 (GHG protocols and standards need integration)

2009 年 FIDIC ロンドン大会 (www.fidic2009.org 参照) 及び同大会で公表された「FIDIC 世界のインフラ白書 2009 年版 (www.fidic.org/infra 参照) は共に気候変動がコンサルティングエンジニアにとって中心的緊急課題であるという点に焦点をあてているが、これに関する一つの重要な側面は、ISO 規格が種々の課題に取り組んでいる方法である。ISO 総裁 Rob Steele は、2009 年 7 月東京において、ISO14000 環境管理シリーズが、GHG の定量化、検証及び認証 (verification and validation) に関して、どのようにして ISO14064 規格によって補完されるかについて語った。2 つの新たな GHG 関連委員会の草案 (14066 : GHG の検証者及び認証者の資格要件及び 14067-1/2 : 製品のカーボンフットプリント) がコメントを受けるために公表され、そこではカーボンフットプリント組織設立の提案がなされている。ISO14064 は、

FIDIC 世界のインフラ白書 2009 年版
 注文コード : IN-1
 会員価格 6,825 円
 一般価格 8,400 円
 - 現在日本語版を作成中 -



特に世界資源研究所及び持続可能な発展のための世界経済人会議(WBCSD)によって開発された企業会計及びプロジェクト会計のための GHG プロトコル(GHG Protocols)のような自主的な GHG 算定・報告基準に対して一貫性があり両立する。さらに ISO14064 の原則及び ISO14065 の検証と認証の必要条件は、その気候変動グループ、国際排出権取引協会 (IETA) 及び WBCSD によって開発された VCS 認証基準 (Voluntary Carbon Standard: 企業、団体、個人の自主的な VER 取組みのための測定・認証基準) に統合されている。これらの自主的なプロトコル及び近々発表される ISO 規格は、「コンサルティングエンジニアが、国家、組織、施設及び製品/サービスの各レベルを網羅する 4 タイプの GHG 算定・報告の方法をうまく処理できることを期待する」であろう。それらの統一には、おそらく一つのプロトコルあるいは規格を必要とする。そしてそのレベルこそ、FIDIC が積極的に活動することを目指すところである。

D. 契約約款 (Business-Contracts)

D.1 FIDIC 会長認定紛争裁定人リスト新規登録者決まる (Adjudicators gain entry to the FIDIC President's List)

13 名の候補者が、FIDIC 会長認定紛争裁定人リストへの登録に必要な厳格な条件に合格した。彼らは、Murray Armes (英国)、Brian Barr (英国)、Christopher Chilton (英国)、Peter Collie (英国)、Sebastian Hoek (ドイツ)、Volker Jurowich (ドイツ)、Malcolm Kelley (英国)、Robert Knutson (英国)、John Madden (英国)、Christopher Meirs (英国)、Paul Taggart (英国)、Roger Ter Haar (英国)、John Wright (英国) である。彼らの経歴及び連絡先の詳細は、www.fidic.org/dab で参照できる。リストへの登録には、国際的紛争解決と FIDIC 契約約款について適切な経験があるかどうかの事前評価に加え、FIDIC 裁定人評価委員会によって開催される 2 日間にわたる裁定人評価ワークショップでの評価に合格する必要がある。評価はクレームと紛争、及び紛争裁定委員会 (DAB) の活動に関連した状況を検証した。2 つ DAB の評決が宿題として出され、紛争回避と紛争解決に関するケーススタディが行われ、個人別のインタビューが続いた。次のワークショップは、申込者の数にもよるが、2012 年中頃に開催される見込みである。FIDIC 会長は、FIDIC 契約約款の下での紛争解決のための指名要請があれば、このリストの中からの裁定人を指名する。リストされた人たちは、DAB メンバーとしても指名が可能である。

E. 協会活動 (Industry-Representation)

E.1 4 カ国が FIDIC に加盟 (Four countries join FIDIC)

ロンドンでの 2009 年 FIDIC 総会で新たに 4 協会が FIDIC 会員として選ばれ、FIDIC に名を連ねる国は 84 となった。新会員は、レバノンコンサルティングエンジニア協会 (LACE-Lebanon)、クウェートコンサルティングエンジニア協会、セルビアコンサルティングエンジニア協会 (ACES-Serbia) 及びスーダンエンジニアリング建築コンサルタント協会である。LACE-Lebanon



の Said Fatha 事務局長、ACES-Serbia の Milos Svarc 会長及び SEACA-Sudan の Ashraf Zaki 事務局長が同総会で講演した (Serbia PDF, Sudan PDF)。写真は、VBI ドイツ会長 Volker Cornelius とともに写ったセルビア代表団 (左から Milos Svarc 会長、USAID の Anna Trbovich、Zoran Djordjevic 副会長) である。USAID セルビアの競争力向上プロジェクトが ACES-Serbia の設立を支援した。

F. イメージ (Industry-Image)

F.1 地域会議の計画が進行中 (Planning for regional conferences underway)

2010 年 FIDIC GAMA アフリカ会議は、「戦略パートナーとしてのコンサルティングエンジニア」をテーマとして、3 月 14 日から 17 日にかけてケニアのモンバサで開催される。このテーマは、戦略形成段階からプロジェクト委託までのあらゆる段階において、公共部門と民間部門両方のクライアントに対して、信頼できる戦略的なパートナー及びアドバイザーとしてのエンジニアの役割を強調する。このパートナーシップは、インフラストラクチャそのものを概念設計し、完成させることにコンサルティングエンジニアの役割が重要であるにもかかわらず、特にアフリカでは、常には十分に利用されてきたという訳ではなかった。主催者である ACEK ケニアは、最初の論文概要募集の案内を、2009 年 11 月初旬締め切りで出したところである。詳細は FIDIC 及び GAMA のウェブサイト(www.fidic.org/gama)から入手できる。



2010 年 FIDIC ASPAC アジア太平洋会議は、2010 年 FIDIC ニューデリー大会(9 月 19-22 日; www.fidic2010.org)をアジア地域で強く支援するために、延期された。ASPAC の総会と他の行事は、FIDIC 大会期間中に開催されるであろう。2009 年の FIDIC 総会で日本の廣谷彰彦現 ASPAC 会長(写真)が FIDIC 理事に選出された関係で、新しい ASPAC 会長と交代する協議が進行中である。大会は「革新をマネジする - 前へ進むために(Managing Innovation-The Way Forward)」をテーマに開催される。そこでは変革を推し進めていく前に立ち足るバリアを乗り越えていく道筋を示してくれるであろう。この変革は、2009 年 FIDIC ロンドン大会で注目された「世界的なチャレンジ」への創造的な解決策をコンサルティングエンジニアが提供できるようにする必要性である。改革の実施は、約束は簡単であるが、実施は難しい。なぜなら、これまで以上に競争が激しく、リスクを嫌う市場が、革新的傾向に向かい難いビジネス環境を作ってしまったからである。

FIDIC 理事会は、FEPAC 南アメリカ総会及び FEPAC-CNEC メキシコ合同会議(5 月 22-24 日)に先立つ 2010 年 5 月 19 日から 21 日にかけて、メキシコシティで会合を持つ予定である。CNEC メキシコはその創立 50 周年を祝う。2010 年 EFCA ヨーロッパ会議は 5 月 27 日から 29 日にかけてイタリアのローマで開催される。

G. 倫理 (Principles-Ethics)

G.1 公正性チャンピオンへの Prangey 賞 (Prangey Award for integrity champion)

世界銀行のコンサルタント及び調達ガイドラインに定める詐欺及び腐敗条項に違反したとして、新たに、企業を除く、数人の個人及びバングラデシュの非政府組織がリスト加わり、欠格者は 108 となった。アジア開発銀行は現在 320 の不適格な個人と会社をリストしており、米州開発銀行はおよそ 75 をリストしている。ブラックリストの作成だけでは根本から腐敗行為に立ち向かうわけではないので、FIDIC は、11 月初旬にギリシャで予定している開発銀行の調達責任者との会合で、反腐敗問題の論議を続けることになる。FIDIC は供給側の制裁処置だけではなく供給側の反腐敗対策、特に FIDIC ビジネス公正管理システム (BIMS) の普及も求めている。



メキシコの Felipe Ochoa Rosso 博士（写真）は、長く FIDIC の活動に貢献している公正管理の第一人者であり、BIMS ガイドラインと政府調達機関の協力者への中心的な貢献者である。彼は、2009 年 FIDIC ロンドン大会(9 月 13-16 日)で FIDIC Prangey 賞を授与された。この賞は、コンサルティングエンジニアリング業界と FIDIC に対する長年の価値ある貢献に対して授与される、当業界における主要な賞である。Ochoa 氏は、企業内での公正性を管理する当業界の国際基準である BIMS 品質管理システムの開発の影の原動力であった。また、彼は 2002 年に BIMS ガイドラインの起草と出版について開発銀行からの支援を取付けることができた。BIMS は OECD 反贈収賄会議に大変大きく影響を与えており、会議では、各国の遵守状況をレビューするメカニズムが非常にうまく機能していることが判明した。しかし、国連の反腐敗会議は構造的な腐敗に対する戦いにおいて、世界的な影響力を持っており、また唯一、世界的に方向性を示してくれる。交渉が行き詰まっているので、腐敗と戦う G20 の国家首脳と主導的な企業が、国連の年次総会に招集され、2009 年締約国(States Parties)会議(2009 年 11 月 9-13 日、ドーハ)にて、実施状況のレビューメカニズムを立ち上げた。

H. 持続性 (Principles - Sustainability)

H.1 建築物証明の改善を勧告 (Report recommends improvements to building certification)

非政府組織である米国建築科学会 (NIBS: The US National Institute of Building Sciences) は、好ましくない建築物の格付け及び証明書発行のまん延を克服するために、行動をとるように推奨している (PDF)。それらは、商業的な動機によるもので、特定の問題要素のみを取り上げた、首尾一貫しない、証明されていない、理解に乏しい、不適切に法律に取り込まれた、資格がない専門家によって実証された、設計原理と無関係な、すべての関係者に対してリスクと責任を増大させるものである。推奨する行動は以下の通りである。



- a) 資格を持った専門家によって認定/証明を行う。
- b) 証明書には適合していることを示すデータを含むことを要求する。
- c) 一般的な基準を網羅して満たす。
- d) 政策立案者、オーナー、監督者及びユーザー、そして建築物認可を採用している監督機関のために、指導書を造る。

以下の点が懸念される。

- a) 暗黙の契約履行保証がある。
- b) 履行に対する期待が実現されなかった場合は、設計者と工事請負業者のリスクが増大するかもしれない。
- c) 専門家の注意義務の標準に影響する。そして、
- d) 誤解された期待による保険金請求が発生する。

しかし、NIBS はリスクと瑕疵責任問題については、何も言及していない。

FIDIC は、特に以下の活動のように、活発にこれらの分野で動いている。

- a) 建築物証明に関してコンサルティングエンジニアが、その必要性に関して良く知っていること、能力があることを確実にするベストプラクティスを普及させる。

- b) FIDIC プロジェクト持続性管理ガイドラインで明確に示されたプロセスと一般的な必要条件を満たすことを保証する「点数付け及び認証システム」の開発者と協働している。
- c) ガイダンスを造る。

持続可能なプロジェクト及び建築物証明に関するリスクと瑕疵責任の問題は、2010 年 FIDIC ニューデリー大会(9 月 19-22 日;www.fidic2010.org)をリードする予定の注目テーマである。そこでは「プロジェクト持続性管理におけるリスク対処法の革新」に関する複数のセッションを予定している。

1. 行事 (Announcements-Events)

1.1 FIDIC の会議及び国際訓練プログラム (FIDIC Conferences and International Training Programme)

2009 年 11 月 9-10 日 : FIDIC - ECV 社契約約款研修コース (クレーム) ウィーン

2009 年 11 月 12-13 日 : FIDIC - コーナーストーン社契約約款ワークショップ (クレーム) アムステルダム

2009 年 11 月 16-17 日 : FIDIC - ECV 社契約約款研修コース (契約約款) ザグレブ

2009 年 11 月 17-19 : FIDIC 契約約款集中コース (経営) ドーハ

2009 年 12 月 2-3 日 : FIDIC 契約約款ユーザー会議、ロンドン

2010 年 1 月~9 月 : 若手専門職管理者訓練プログラム

2010 年 3 月 : 2010 年 FIDIC GAMA アフリカ地域会議、モンパサ

2010 年 3 月 : FIDIC 中東契約約款ユーザー会議、U A E。

2010 年 5 月 12-16 日 : DBRF2010 紛争解決ワークショップ及び会議、イスタンブール

2010 年 5 月 22-24 日 : FEPAC 南アメリカ会議、メキシコシティー

2010 年 5 月 27-29 日 : EFCA-ヨーロッパ会議、ローマ、イタリア

2010 年 6 月 : FIDIC アジア太平洋契約約款ユーザー会議

2010 年 9 月 19-22 日 : 2010 年 FIDIC ニューデリー大会、2010 年 FIDIC ASPAC アジア太平洋地域会議を同時開催

1.2 FIDIC ロンドン大会で UAE の紛争解決に脚光 (Conference highlighted UAE dispute resolution)

FIDIC のライセンスに基づいて修正した FIDIC 建設契約約款とその解説書は、湾岸地域の主なインフラストラクチャ投資家に、U A E における契約条件書の選択肢を与えた。2009 年 FIDIC- I C C 契約約款及び紛争解決会議 (10 月 15-16 日、イスタンブール) において、UAE の Tamimi 社の Essam Al Tamimi は、世界金融危機が U A E での紛争を大きく増加させたと指摘した。とは言え、極めて多数の契約約款が紛争解決委員会条項を削除していたので、裁定の数が劇的に増加した (U A E の主な仲裁センターであるドバイ国際仲裁センターは、2008 年の 100 件に対して 2009 年には 300 件を予想している)。この状況に鑑み、いくつかの緊急処置が執られるようである。まず、UNCITRAL 模範法に基づいて新しい U A E 連邦の調停法を作ることによって、現在の限定された仲裁のための法律上の枠組みが、強化される見込みが高い。次に、U A E の法廷が歴史的に仲裁支援に積極的でなかったことを克服する傾向になったことである。これは多分、法廷自身が、従来に比較して著しく多くの建設訴訟、その大半は工事請負業者への不払いを含む、に直面したからであろう。第三に、法廷の仲裁判断の執行が長い遅れをこうむっている状況下にあって、2009 年 9 月のドバイ友好的紛争解決センターの設立を反映し、FIDIC の紛争解決手順の完全な形での適用に対する支援が増加していたことである。記録を破る 220

人の参加者を引き付けた会議での主なプレゼンテーション資料は、オンラインで利用可能である。

J. 報告 (Announcements – Notices)

J.1 新しいメンバーが世界中から選出された (New members elected from around the world)

写真上は 2009 年 9 月 16 日の 2009 年 FIDIC 総会(GAM)において話をしているアメリカのスタンレーコンサルタント社会長及びCEOである Gregs Thomopoulos であるが、彼はその GAM において FIDIC 会長として選出された。同時に、英国の Scott Wilson 社会長 Geoff French (写真下) が FIDIC 副会長として選出された。カナダの John Boyd 博士は、インド Subhash Mehrotra 及び中国の Xie Shaozhang とともに、8 年に涉って FIDIC 理事会の仕事に打ち込んできたが、このたび引退した。GAM において選出された新しい理事は、廣谷彰彦 (オリエンタルコンサルタント社長、日本)、Bisher Jardaneh (Arabtech Jardaneh 社専務、ヨルダン)、Jae-Wan Lee (Sekwang エンジニアリングコンサルタンツCEO及び会長、韓国) である。メンバー協会として、クウェート、レバノン、セルビア及びスーダンの協会が承認された。また、協賛会員として、インドの Bangalore 水道委員会、ブラジルの Construtora Queiroz Galvao SA、レバノンの Marseille and Al Ulla Group、モーリシャスの Somah Associates Ltd、カタールの UQPM が迎えられた。



GAM で出席者に配布された FIDIC 年次報告書(PDF)は、この 12 カ月間の活動をレビューした。この報告書では、FIDIC の安定した財政状況、いくつかの最新刊 (サービスの定義ガイドライン、リスクマネジメント簡易手引き、及び FIDIC 世界インフラストラクチャ報告書 2009 年版を含む)、FIDIC のトレーニングに対する需要の増大、ボランティアによって行われた広範囲に渡る委員会活動、そして FIDIC 運営のスコアカードによる評価について、強調している。GAM で承認された 2010 年の予算は、2009 年の監査済み会計と比較してわずかな収入増を見込んでいる。これは、(連続 6 年) 会員協会会費単価は変更しない代わりに、新規会員協会には新たな最低会費を課すことになった。GAM によって承認されたこの最低会費は準会員費と等しく、またその国の業界の総スタッフ数に基づいている。また、180,000 スイスフラン (約 1.6 億円) の支出増加に GAM は同意した。これは、FIDIC 事務局長 Peter Boswell 博士が 2011 年に引退することによる、スタッフのオーバーラップ及び他の出資に当てられる。

バルセロナが 2013 年 FIDIC 百年祭の大会の開催場所として GAM によって確認された。そのための計画がすでに始まっており、準備作業はイベント専門業者に外注された。プログラムを作成するために国際委員会が設立されつつある。そして、スペインの FIDIC メンバー協会である Tecniberia はもとより、関係する機関、産業及びパートナーグループもまた、協力に加わるように求められている。2009 年 FIDIC 年次大会が終わりに近づいたとき、すべての目は神秘的なニューデリーの方向へ向いていた。2010 年 FIDIC 大会 (9 月 19-22; www.fidic.2010.org) のテーマは、「革新をマネジする - 前へ進むために」である。

J.2 各国のメンバー協会会長が FIDIC の理事と会合 (Associations met with the FIDIC Executive Committee)

2009 年 FIDIC ロンドン大会の直前に開催された FIDIC 年次会長会議で、およそ 36 カ国の会員協会会長が FIDIC の理事と会合した。目的は、FIDIC が採配したか、あるいは援助を必要とした問題の最初の手を知るためである (報告 PDF 参照)。FIDIC の地域戦略について、特に研修の分野における地域グループとのより密接なリンク及び FIDIC の地域での露出度拡大を含めて、さらに詳細に議論された。また、FIDIC 事務局の可能な構造改革について、連盟活動と関連してあるいは独立した形での FIDIC の商業的関心事の費用効果がいっそう高い運営のために検討すべき選択肢と共に説明された。近い将来の FIDIC 事務局の一部移転についても、軽視されなかった。アフリカ、アジア及び中東の FIDIC メンバー協会地域グループと、また同様に地域の連合 (ヨーロッパでの EFCA 及び南アメリカでの FEPAC) との議論が継続されている。

2009 年 FIDIC メンバー協会事務局長及びセクレタリー会議 (9 月 12 日土曜日; プレゼンテーション資料にリンクした報告 PDF 参照) が開催され、いくつかの協会に影響を与えた世界経済危機に対しての経験と解決策について検討した。若干の協会に、その会員会社、特に建築部門に関係している会社の脱退によって会員数の減少が見られた。マーケティング、ロビー活動及びコスト削減の改善すべてが、会員数を増やすことができる方法であると認知された。逆に若干の協会は、インフラストラクチャの刺激策による需要に対応して、会員数を増やした。コンサルティングエンジニアのイメージ向上とロビー活動は、多くの国において優先度が高いと認識されていた。

J.3 FIDIC 理事会はヨーロッパでの代表性と戦略に注目 (Executive focused on representation and a strategy for Europe)

2009 年 FIDIC ロンドン大会 (9 月 13-16 日) の前後に会合を持った FIDIC 理事会に、新たに日本の廣谷彰彦、ヨルダンの Bisher Jardaneh (写真上) 及び韓国の Jae-Wan Lee (写真下) が加わった。重要な議題は、コンサルティングエンジニアリング産業の 5 カ年ビジョンの継続的な発展であった。それは、各国を完全に代表するメンバー協会の代表性強化と、他の産業部門の主要なグループとのより大きな相互作用を通じて行うものである。



会員数を増加させる任務があるので、作業部会が、伝統的なコンサルティングエンジニアリング分野に留まらず、工業エンジニアリング分野についても、その活動の調査を行った。FIDIC 出納局長 Adam Thornton は 2009 年 9 月 13 日の 2009 年 FIDIC 会員協会会長会議でプレゼンテーション (PDF) を行い、「作業部会が、数年にわたって段階的に導入するように『来年の総会に提案する熟考された会費問題解決策』の起草を目指して検討している」ことを示した。それは購買力、協会の大きさ、その国の産業を代表する程度、及び為替レート変動によって調整された、その時点の会員企業のスタッフ数の報告を想定している。



その他の重要な問題は、ベトナムに FIDIC 研修センターを設立すること、中国での国際認証としての政府レビューを受けた後のパイロット認定プログラムを開始できそうなことである。研修センターは

FIDIC の国際研修計画 (ITP) に参加して認定された国際的な指導員を登用するであろう。研修に対する拡大する要求を満たすために、FIDIC は地域の指導員を認定する認定指導員養成プログラム(ATDP)を開始した。これによって、彼らを ITP の指導員として起用でき、自身の地域で研修を行うことができる。予算処置は、これらの 2 つのプログラムに使用する研修モジュールのさらなる開発と地域での活動のために、また事務局の追加予算として承認された。

新しいメンバー協会に関しては、FIDIC の研修活動に FIDIC メンバー協会をいっそう直接的に関与させるように計画された。セルビアについては 2009 年 10 月 22 日と 23 日の両日、初めての FIDIC-CES-Serbia 契約約款研修コースが YuBuild と共催して開催された。他のコースはバルカン地域全体で計画されている。レバノンとスーダンでは、FIDIC は現在それぞれの国で研修コースを開催するための認定された研修業者の参入を目論んでいる。

J.4 FIDIC2010 若手専門職管理者研修プログラム開始 (FIDIC 2010 Young Professionals Management Training Programme launched)

2009 年 FIDIC ロンドン大会(9 月 13-16 日)における若手専門職プログラムは、十分なものであった。35 カ国からのおよそ 80 人の若手専門職がワークショップ、ソーシャルイベント及びロンドンオリンピックサイトの技術的なツアーに参加した。また、2009 年 FIDIC 若手専門職管理者訓練計画 (YPMTP) の 22 名の参加者が、大会直前のセッションでプログラムを完了し、FIDIC 会長 John Boyd から証明書を受け取った。現在の経済危機にもかかわらず、世界が良いエンジニアの欠乏に直面しており、今日の未来のリーダーが明日への挑戦を引き受ける必要があることが指摘された。2010 年の YPMTP は 2010 年 1 月中旬に始まり、2010 年 FIDIC ニューデリー大会 (9 月 19-22 日 ; www.fidic2010.org) でのセッションで終了し、2010 年 12 月 30 日で閉められる (参照 : www.fidic.org/ypmtp)

以上